



2008年3月期中間決算 プレゼンテーション資料

2007年10月
大阪ガス株式会社

I. 08.3期中間決算実績と当期の見通し

インターネットを通じて定期的に経営情報を発信しています。下記のURLで、決算短信、アニュアルレポート、説明会資料等を閲覧・ダウンロードすることが可能です。<http://www.osakagas.co.jp/ir/>

「見通し」に関する注意事項：このプレゼンテーションには、将来の業績に関する見通し、計画、戦略などが含まれており、これらは現在入手可能な情報から得られた当社グループの判断に基づいております。実際の業績は、さまざまな重要な要素により、これら業績の見通しとは大きく異なる結果となりうることをご承知おきください。実際の業績に影響を与えうる重要な要素には、日本経済の動向、急激な為替相場・原油価格の変動並びに天候の異変等があります。

連結ガス販売量に関する注記：名張近鉄ガス・篠山都市ガス・豊岡エネルギーは12月決算です。

ガス販売量に関する注記：全て、基準熱量を45MJ/m³として、表記しています。

中間期ガス販売状況

45MJ/m3

		08.3中間期		07.3中間期	A-C	A/C
		A. 実績	B. 当初見通	C. 実績		(%)
個別	期末取付メーター(千件)	6,839	6,835	6,780	+59	+0.9
	新設工事件数(千件)	50	50	49	+1	--
	家庭用1戸当り販売量(m3/月)	25.0	24.8	26.6	-1.6	-5.9
	家庭用	862	856	911	-49	-5.4
	商公医療用	853	873	892	-40	-4.4
	工業用	2,212	2,277	2,134	+78	+3.7
	業務用計	3,065	3,150	3,026	+38	+1.3
	他ガス事業者向け	221	222	189	+32	+16.9
	(うち大口供給)	(2,546)	(2,625)	(2,299)	(+247)	(+10.8)
	ガス販売量合計(百万m3)	4,148	4,229	4,126	+21	+0.5
連結ガス販売量	4,164	4,245	4,141	+23	+0.6	

08.3中間期実績 I

連結：億円、()内は連単倍率

	08.3中間期		07.3中間期	A-C	A/C
	A. 実績	B. 当初見通	C. 実績		(%)
売上高	(1.41) 5,436	(1.38) 5,350	(1.39) 5,330	+105	+2.0
営業利益	(1.67) 388	(1.67) 275	(1.46) 444	-56	-12.8
経常利益	(1.51) 421	(1.41) 275	(1.30) 453	-32	-7.1
中間純利益	(1.39) 254	(1.28) 160	(1.19) 277	-22	-8.2
SVA	116	20	146	-29	-20.2
08.3中間期の業績予想は、当初見通しの発表後、10月15日に修正発表(売上高5,430億円、営業利益385億円、経常利益415億円、中間純利益250億円)を行っています。					
連結ガス販売量	百万m3	4,164	4,245	4,141	+23
為替レート	円/\$	119.4	120	115.4	+4.0
原油価格	\$/bbl	67.8	60	67.8	0
連結子会社数		128	132	133	-5

08.3中間期の原油価格実績67.8\$は、9月速報値までの平均。SVA(Shareholders' value added)=NOPAT – 投下資本 × WACC

中間決算のポイント

■ 概況

- LNG価格の上昇に伴うガス販売価格の上昇や連結子会社の事業拡大によって、前年同期と比較して増収。
- 連結子会社の利益貢献はあったものの、06年11月に実施した小口部門のガス料金改定の影響や減価償却費制度の変更影響によって、営業利益以下では、前年同期と比較して減益。
- 当初見通しとの比較では、LNG原料費の減・固定費の減により、増益。

■ ガス販売量

- 前06年の春先が低気温だったため、家庭用ガス販売量は前年同期では減少だが、平年気温で想定した当初見通しを上回った。
- 業務用では、空調用途で気温影響を受けたこと等で、当初見通しをやや下回った。

■ 原油価格変動の影響

- 前年同期との比較では、ほぼ同水準。当初の見通しと比較すると、原油価格が高めに推移したが、影響は主に下期に発生する見込み。

■ 成長投資の実行

- 米国IPPへの追加出資(グアム:マリアナス・エナジー社)や豪州コンデンセート田への出資など、計約200億円を実施。

08.3期 年間ガス販売見通し

- 下期見通しを従来通りとし、合計では当初見通しを下回るものの、前期との比較では増加の見通しを維持。

45MJ/m3		08.3期見通し		07.3期	A-C	A/C
		A. 今回	B.当初	C. 実績		(%)
個 別	期末取付メーター(千件)	6,871	6,871	6,820	+51	+0.8
	新設工事件数(千件)	128	128	127	+1	--
	家庭用1戸当り販売量(m3/月)	34.2	34.1	33.5	+0.7	+2.0
	家庭用	2,364	2,359	2,303	+61	+2.7
	商公医療用	1,652	1,674	1,664	-11	-0.7
	工業用	4,538	4,602	4,354	+184	+4.2
	業務用計	6,190	6,276	6,018	+172	+2.9
	他ガス事業者向け	450	451	416	+34	+8.1
	(うち大口供給)	(5,184)	(5,263)	(4,618)	(+567)	(12.3)
	ガス販売量合計(百万m3)	9,005	9,086	8,738	+267	+3.1
連結ガス販売量	9,036	9,117	8,764	+271	+3.1	

08.3期見通しの考え方 (当初見通しからの変更点)

- 前提諸元
 - 原油価格は、従来見通しの下期60\$/bblから、70\$/bblに変更。通期の想定は、従来の60\$/bblから68.9\$/bblに変更。
 - 為替レートは、下期は従来想定の通り120円/\$とし、通期では119.7円/\$の想定。
- ガス販売量
 - 下期は当初見通しの通りで想定の変更は無し。
- 個別ガス売上高・原材料費
 - 原油価格の想定変更・LNG価格の上昇に伴って、ガス販売単価が上昇、原材料費が増加する想定を織り込み。
- 連結子会社
 - 中間期は総じて好調だったが、売上・経費の計上時期ずれ等を考慮して、通期では当初見通しの通り。

中間期は当初見通しよりも増益となったが、ガス事業では売上高・利益等に占める下期のウエイトが上期と比較して高いこと、下期にはガス原材料費が増加することを織り込み、通期では当初見通しから売上高を変更した10月15日発表の修正予想の通りと想定。

08.3期見通し I

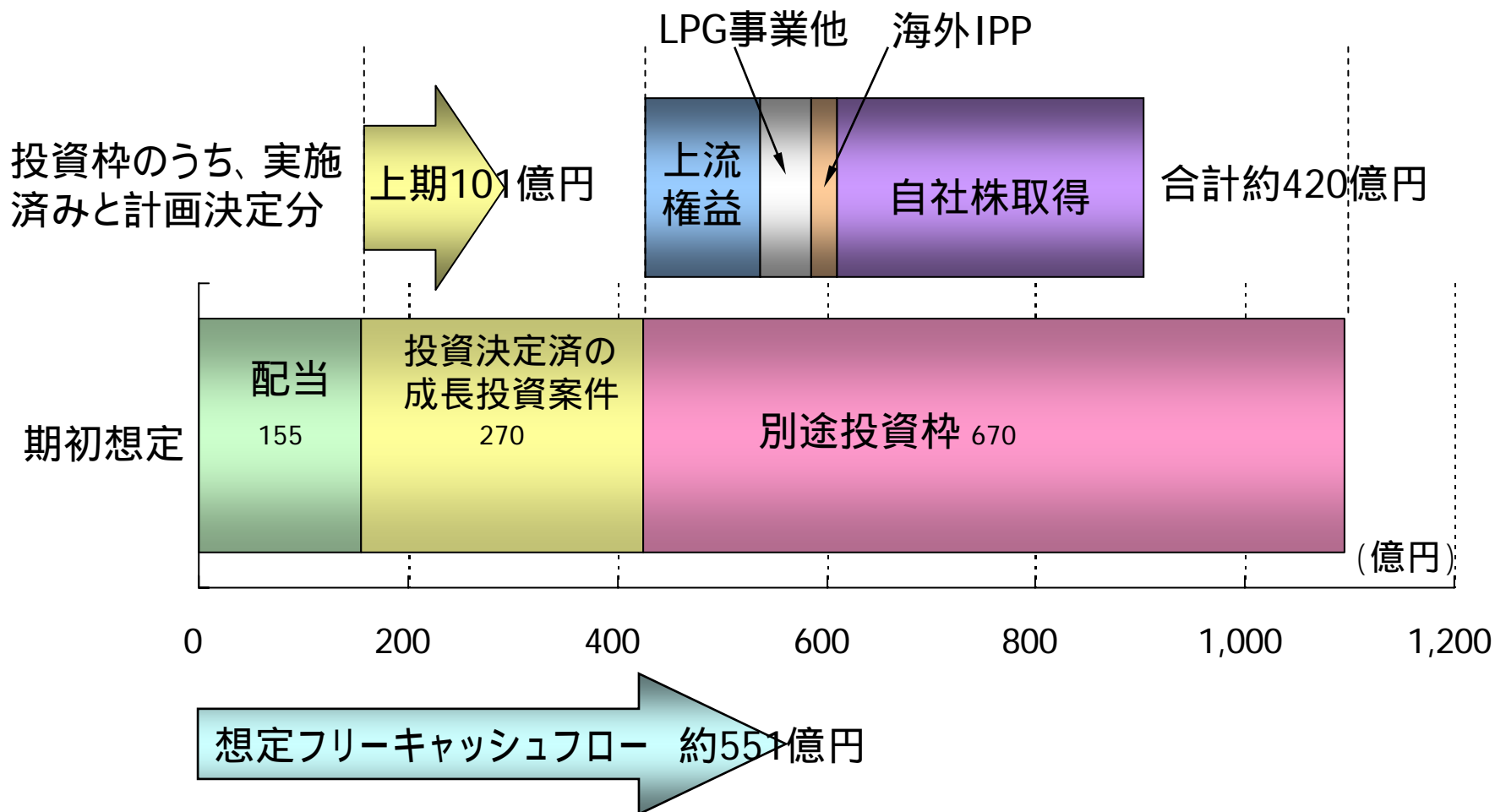
連結、単位：億円、 ()内は連単倍率	08.3期		07.3期	前期	前期比
	今回見通	当初見通	年間実績	との差	(%)
売上高	(1.36) 12,035	(1.37) 11,905	(1.38) 11,744	+291	+2.5
営業利益	(1.48) 845	(1.48) 845	(1.47) 937	-92	-9.8
経常利益	(1.37) 830	(1.37) 830	(1.31) 895	-65	-7.3
当期純利益	(1.26) 490	(1.26) 490	(1.20) 529	-39	-7.4
SVA	215	210	268	-53	-19.8

「今回見通」はSVAを除いて、10月15日に発表した業績予想の修正と同一です。SVAは、下期に実施を予定している自己株式の取得・消却を考慮して、今回見通しを変更しました。

連結ガス販売量	百万m3	9,036	9,117	8,764	+271
為替レート	円/\$	119.7	120.0	117.0	+2.7
原油価格	\$/bbl	68.9	60.0	63.4	+5.5
連結子会社数		131	--	132	-1

SVA(Shareholders' value added)=NOPAT - 投下資本 × WACC、実質GDP伸び率(想定) = 1.6%

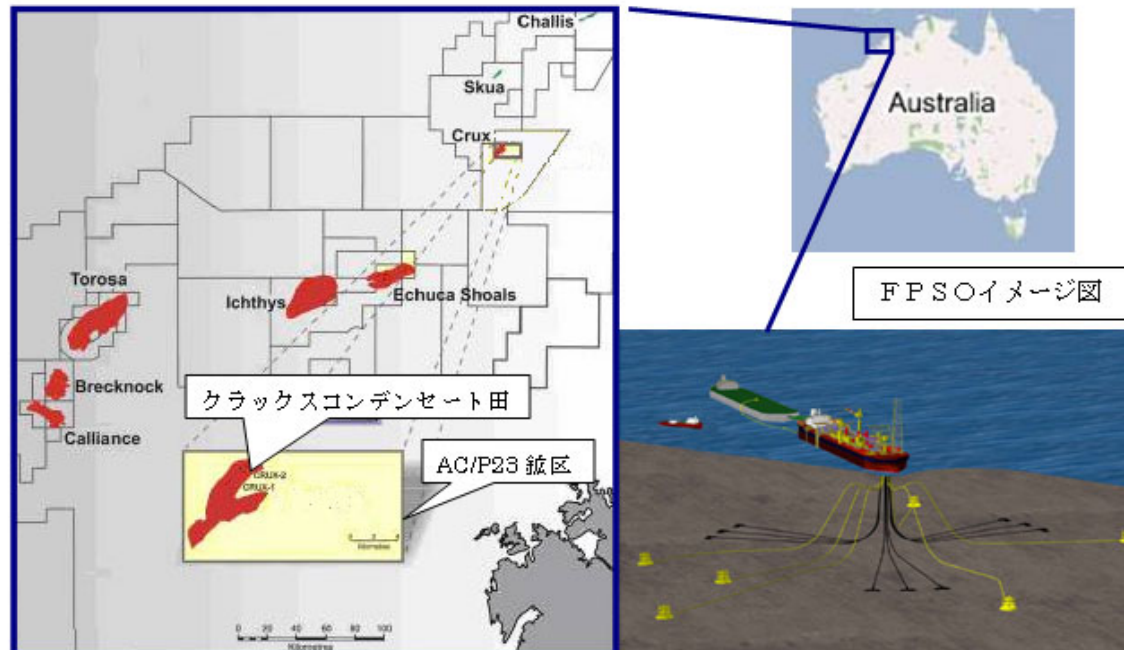
08.3期 成長投資等の進捗状況



FCF=営業活動によるキャッシュフロー-設備投資による支出。設備投資には成長投資を含まず。「投資決定済の成長投資案件」には、設備投資案件と投融資案件の両方を含む。配当は支払ベース。

西豪州クラックスプロジェクトへの参画

- 西豪州ブラウズ海域に位置するAC/P23鉱区権益の15%を取得することについて、ネクサス・エナジー社(Nexus Energy Limited)との間で合意。取得価額は75百万豪州ドル。(07年8月発表)
- 大阪ガスグループとネクサス・エナジー社は2008年6月までにコンデンセート生産プロジェクトの開発意思決定を行い、約2年の開発期間を経て生産開始を目指す。生産量はピーク時に日産3万バレル程度を予定。



FPSO: 浮体式石油生産貯蔵
積出設備

自己株式の取得計画の発表

- 以下の主旨・内容による自己株式の取得計画を発表(07年10月発表)
 - 主旨： 一株当たり指標の改善による株主還元、及び資本効率の向上
 - 取得株式の総数： 上限7,100万株(発行済み株式総数の3.2%)
 - 取得対価の総額： 上限300億円
 - 取得期間： 07年10月30日～08年3月31日、取得株式数または取得対価総額が上記のいずれかに達した時点で取得を終了する。
 - 取得株式の取扱い： 自己株式の取得が全て終了した段階で、取締役会決議の上、消却する予定

II. 参考資料

08.3中間期実績 II

連結:億円	08.3中間期		07.3期実績		差異	
	実績	当初見通	中間期末	期末	対前期	対見通
総資産	14,300	14,276	13,767	14,056	+243	+24
自己資本	6,843	6,741	6,477	6,688	+154	+102
有利子負債	5,401	5,517	5,158	4,878	+523	-115
設備投資	489	436	388	952	+100	+53
減価償却費	476	475	411	840	+65	+1
フリーキャッシュフロー	31	-68	-252	275	+284	+99
在籍人員	16,709	16,735	16,469	16,435	+240	-26
自己資本比率	47.9%	47.2%	47.0%	47.6%	+0.8%	+0.6%

B/S項目・在籍人員・自己資本比率の前期差は、07年3月期末との比較。在籍人員は、嘱託を含み出向を除く(有価証券報告書と一致)。FCF=営業活動によるキャッシュフロー(税引後営業利益+減価償却費等非現金支出)-通常の設定維持投資による支出。

連結決算の主な差異(対前期)

単位:億円、利益増加をプラス表示

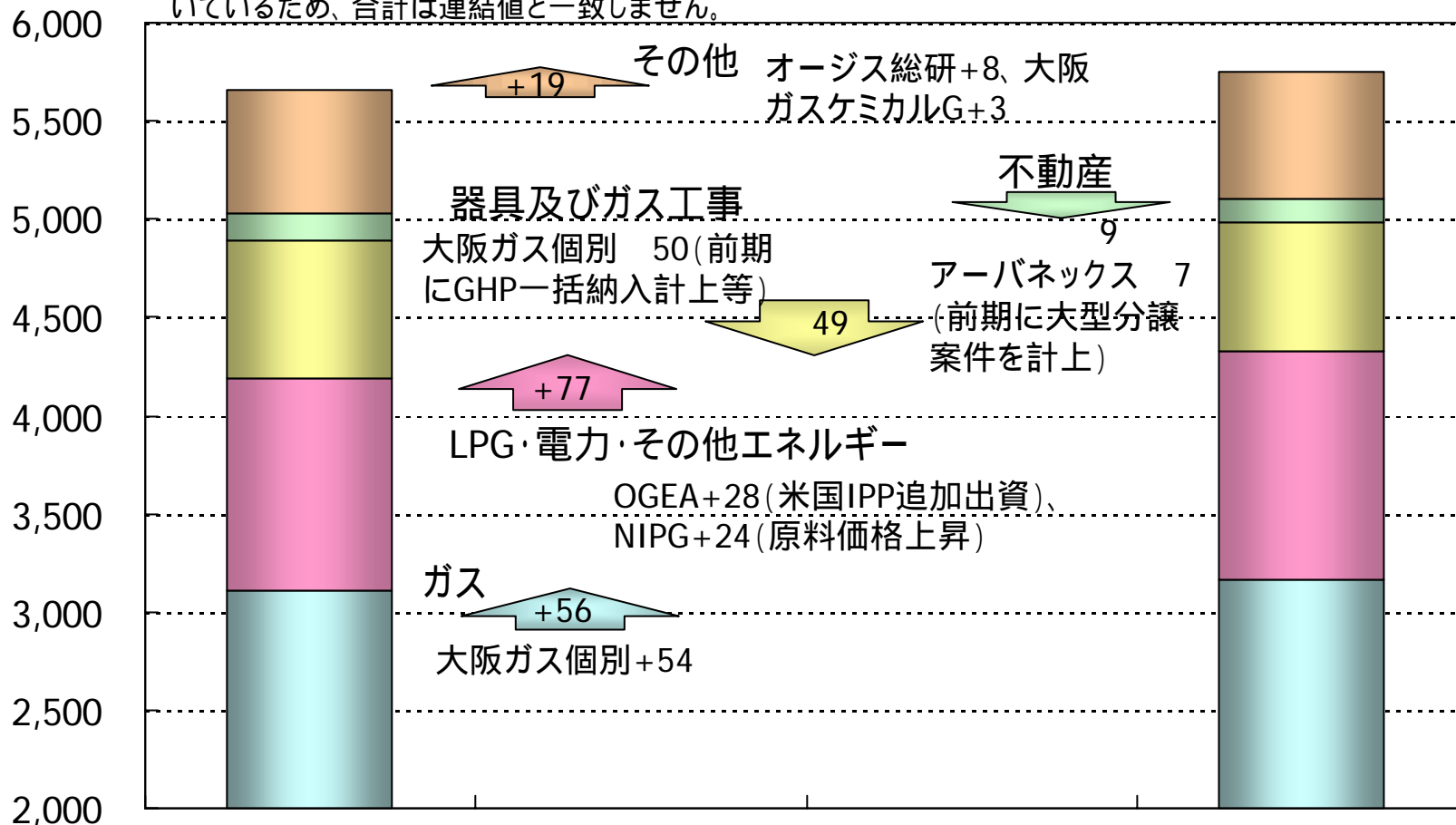
売上高	+105	個別ガス売上高	+52	原料価格影響+80、小口料金改定(06年11月)-36、販売量増等+9
		個別器具販売	-35	GHP等販売減
		連結子会社等	+83	OGEA+28、日商LP+24
営業費用	-162	個別原材料費	-135	原料価格影響-108、販売量増等-27
		個別器具費用	+53	前期に点検費用計上等
		連結子会社等	-67	OGEA-18、日商LP-19
営業利益	-56			
		営業外損益	+25	投資有価証券売却益+16 持分法投資利益+6

OGEA: 大阪ガスエナジーアメリカ(米国IPP投資会社)

セグメント別売上高

(億円)

図中の矢印の長さは、イメージであり、数値を正確に反映したものではありません。「消去又は全社」を除いているため、合計は連結値と一致しません。



'06.9実績

OGEA: 大阪ガスエナジーアメリカ(米国IPP投資会社)、
NIPG: 日商LPガス

'07.9実績

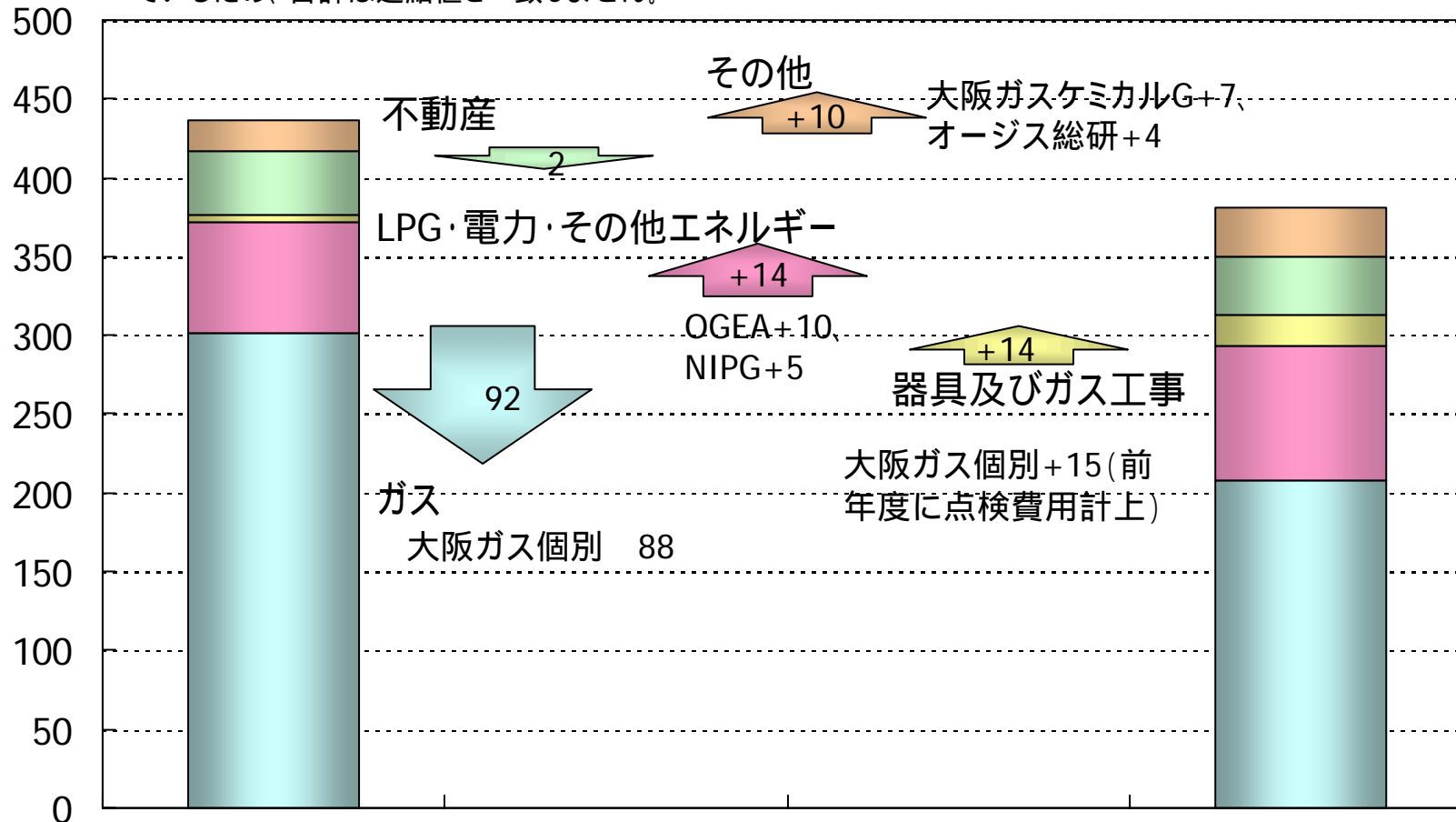
Design Your Energy 夢ある明日を

OSAKA GAS

セグメント別営業利益

(億円)

図中の矢印の長さは、イメージであり、数値を正確に反映したものではありません。「消去又は全社」を除いているため、合計は連結値と一致しません。



'06.9実績

OGEA: 大阪ガスエナジーアメリカ(米国IPP投資会社)、
NIPG: 日商LPガス

'07.9実績

Design Your Energy 夢ある明日を

OSAKA GAS

非エネルギー2セグメントの概況

連結子会社の単純合計、左肩は対前期比

億円	売上高		当期純利益		備考
	中間期	当期見通	中間期	当期見通	
アーバネックスグループ	-7 129	-12 257	+3 23	-5 29	前年同期に大型分譲案件を計上したために、減収。
オージス総研グループ	+12 147	+12 355	+3 8	+2 20	対外向けシステム販売が好調、粗利率も向上し、増収増益。
大阪ガスケミカルグループ	+3 163	+0 312	+2 11	+0 8	売上では活性炭事業の販売増、利益ではファイン材他、高価格製品の販売増で増収増益。
オージーキャピタル等	+2 394	+51 915	-0 15	+2 38	セキュリティ事業や施設管理事業の件数増加により増収。グループ内施設管理の終了等により減益。

非エネルギー2セグメント: 不動産、その他の2セグメント。

エネルギー3セグメントの概況(個別除く)

連結子会社の単純合計、左肩は対前期比

億円	売上高		当期純利益		備考
	中間期	当期見通	中間期	当期見通	
大阪ガス傘下	+28 706	-47 1,462	-36 44	-72 75	米国IPPの子会社化で増収。前期に出光スノーレ関連で剰余金処分を行った影響等により減益。
リキッドガスグループ	+5 157	-16 306	-0 6	-0 11	LNG販売の増と、販売単価の上昇によって増収。減価償却費の増加により減益。
NIPGグループ	+20 613	-22 1,300	+6 2	+8 8	CP上昇による販売単価の上昇によって増収増益
連結子会社合計	+65 2,312	+2 4,911	-21 111	-70 186	

エネルギー3セグメント: ガス、LPG・電力・その他エネルギー、器具及びガス工事の3セグメント。
NIPG: 日商LPガス、CP: サウジアラビアのLPガス公示価格(Contract Price)

08.3期見通し II

自己株式の取得・消却(300億円、71百万株)考慮後

億円、人	08.3期		07.3期	A-C
	A. 年間見通	B. 中間実績	C. 年間実績	
総資産	14,810	14,300	14,056	+753
自己資本	6,691	6,843	6,688	+2
有利子負債	5,608	5,401	4,878	+729
設備投資	1,018	489	952	+65
減価償却費	935	476	840	+94
フリーキャッシュフロー	551	31	275	+275
在籍人員	16,712	16,709	16,435	+277
ROA	3.4%	--	3.8%	-0.4%
ROE	7.3%	--	8.1%	-0.8%
自己資本比率	45.2%	47.9%	47.6%	-2.4%
EPS (円/株)	22.3	--	23.8	-1.5
BPS(円/株)	310.7	307.7	300.6	+10.1

ROA,ROEの分子は共に当期純利益で、分母は期首・期末平均値。自己資本比率は期末値、EPSの分母は期首・期末平均。EPSの計算にあたって、考慮必要な潜在株式はありません。在籍人員は、嘱託を含み出向を除く(有価証券報告書と一致)。FCF=営業活動によるキャッシュフロー(税引後営業利益+減価償却費等非現金支出)-通常の設備維持投資による支出。

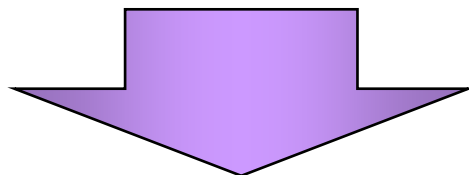
年度見通しに対するリスク要因

- 気温・水温
 - 気・水温1度の変化に対して、家庭用ガス販売量は、春秋期約5%・夏期約6%・冬期約4%変動する可能性がある。
- 原油価格
 - LNG価格は原油価格にリンクするために、原油価格1\$/bblの変化に対して、原材料費は年間34億円変動する可能性がある。
- 為替レート
 - LNG価格は米ドル・円の為替レートにリンクするために、為替レート1円/\$の変化に対して、原材料費は年間25億円変動する可能性がある。
- 原料費調整制度
 - 同制度によって、中長期的には原料費の変動はガス料金に転嫁されるが、反映までのタイムラグや原料調達先の構成によって、業績に影響を与える可能性がある。
- 金利
 - 金利1%の変動に対して、連結営業外費用が年間9億円変動する可能性がある。

家庭用ガス販売

FY08.3中間期

	対前期	備考
調定件数	+0.5%	
気温影響	-4.6%	平均気温23.5度(対前期+0.3度)
その他	-1.4%	検針間隔影響 -0.8%を含む
合計	-5.4%	



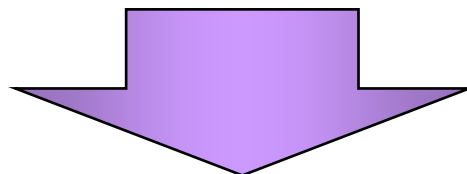
FY08.3期見通し

- 下期は、平年並み気温で推移することを前提として、従来の見通し通りと想定。
- 年間では、上期の対見通し増がそのまま残り、対当初見通し+6百万m³増の2,364百万m³と想定。対前期では前年下期が暖冬だったことから+61百万m³。

商公医療用ガス販売

FY08.3中間期

	対前期	備考
需要開発	+4.8%	商業用大型物件等の獲得
気温影響等	-9.3%	春先暖房期の高気温と、夏の冷房期の低気温影響による空調需要の減など
合計	-4.4%	



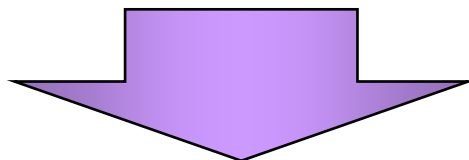
FY08.3期見通し

- 下期は、平年並み気温を前提に、新規需要獲得が従来の見通しに沿って推移するとし、従来見通し通りと想定。
- 年間では、対当初見通し-20百万m3減、対前期-11百万m3減の1,652百万m3と想定。

工業用ガス販売

FY08.3中間期

	対前期	備考
需要開発	+6.8%	主に他燃料からガスへの転換の寄与
稼動増減等	-3.3%	大口顧客での設備改修などの影響
合計	+3.7%	



FY08.3期見通し

- 上期は、大型の燃料転換物件の運転開始等、新規需要開発の寄与があった反面、一部お客さまでの稼動減等も。
- 下期は当初見通しの通りとして、年間では、対当初見通し-65百万m3減、対前期+184百万m3増の4,538百万m3と想定。